

「仕事と生活の調和」実現度指標について

「仕事と生活の調和」実現度指標は、我が国の社会全体でみた個人の暮らし全般に渡る仕事と生活の調和の実現状況と、それを促進するための環境の整備状況を数量的に把握し、その進展度合いを測定するものである。

個人の実現度指標

「個人の実現度指標」は、5分野毎に指標を測定する。各5分野別の指標は更に、中項目、小項目指標に分かれる。小項目指標を行動指針における「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」で整理することにより、その状況を把握することが可能となる。なお、各指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計（構成要素）を合成することにより作成する。



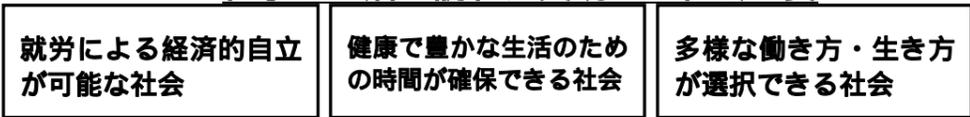
5分野、中項目及び小項目毎に合成指標を作成する。これにより、個人の実現度指標の進展度合いを測ることが可能となる。

1 「標準化」とは、単位や変動幅が異なるデータを同等に扱えるように調整すること。
2 太字は数値目標(以下同)

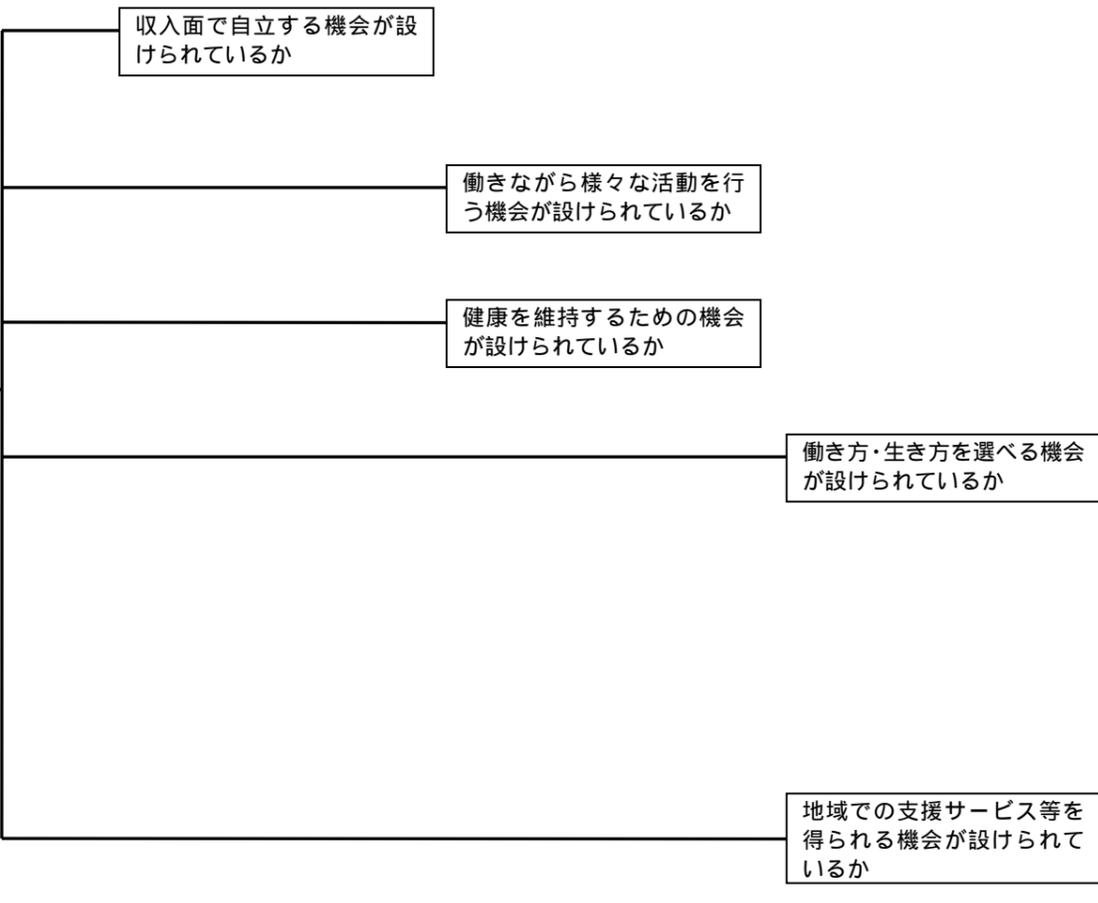
環境整備指標

環境整備指標については、分野を設けず一つの指標として測定する。なお、同指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計（構成要素）を合成することにより作成する。

仕事と生活の調和が実現した社会の姿

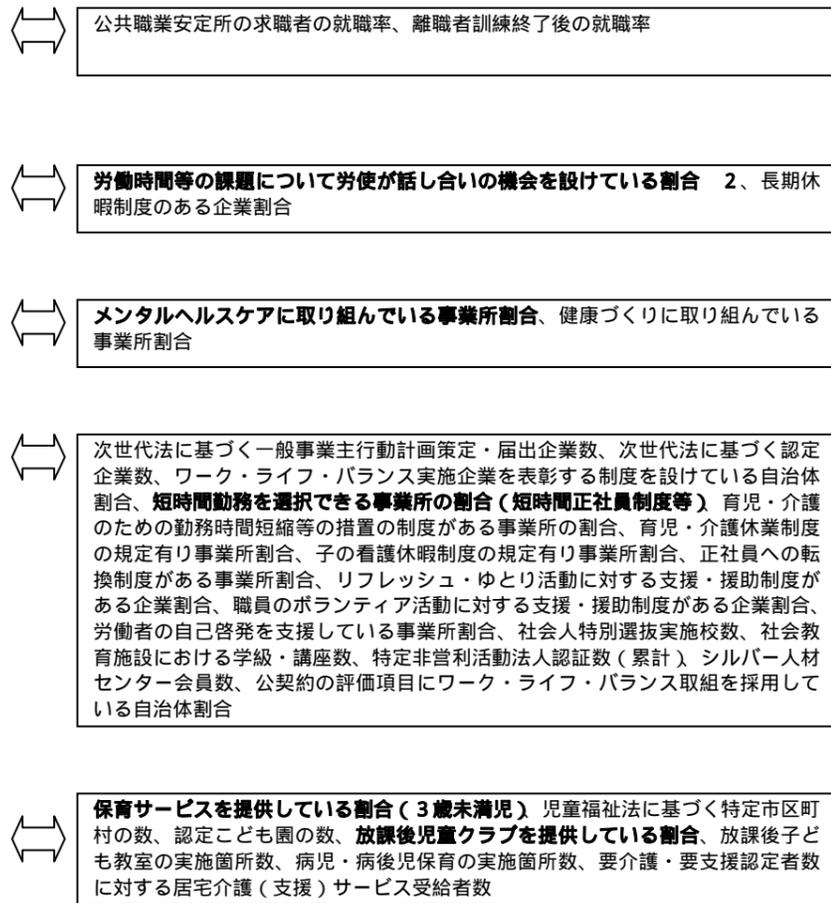


環境整備指標



左記の指標を作成するための構成要素

（標準化¹した各構成要素を合成・指数化する。以下同。）



合成指標を作成する。これにより、環境整備の進展度合を測ることが可能となる。

1 「標準化」とは、単位や変動幅が異なるデータを同等に扱えるように調整すること。
2 太字は数値目標（以下同）